

物語の舞台は、神戸市長田区にある 多世代型介護付きシェアハウス

STORY 神戸市長田区にある「多世代型介護付きシェアハウス はっぴーの家ろっけん」。要介護の高齢者を中心に、赤ちゃんや小中学生の子どもたち、看護師やヘルパー、外国人ダンサー、絵描き、シングルマザー、生きづらさを感じている若者など、多種多様な人たちが、毎日「はっぴー」に集まっています。運営するのは30代の若者たち。シェアハウスだけでなく、空き家再生や不動産業も営みながら、

「暮らし」を意識した活動を続けています。すべてが、ごちゃ混ぜでカオス。はちゃめちゃんのように見えますが、どこか懐かしくて、心が落ち着いて、新しい空気感。ちょっと変わった「30代」が産み出す、世界を少しだけ面白くする方法によって、これからの未来だって変わっていくかもしれません。彼らが創り出す日常に視点を合わせながら、日本の近未来のことにも思いを馳せてみた映像作品です。

よくわからないけど一緒にいる。誰が何をしても気にならない。ところが同じ空間で暮らしていると、ちょっぴりホッとしてしまう。いろいろな理由でここに来て、いつまで一緒にいるのやら。

「はっぴーの家」が大切にしていること…それは日々の“暮らし”を深掘りすること

遠くのシンセキより 近くのタニン

血のつながった「家族」だけにとらわれない。これからは「他人」の価値がもっと上がる時代。いろいろな他者と関わることによって、新しい家族のあり方、向き合い方も生まれてくると思う。そして、自分にとって心地よい人間関係って何なのかを考えること。もっとゆるい感じで「近くのタニン」と接すればいい。

違和感も3つ以上重なると どうでもよくなる

何事も1つの出来事だけに意識を向け過ぎると、妙にそれだけが気になってしまう。ところが、それが2つになったり、3つになったりすることで、最初のことなんて、どうでもよくなるでしょう。つまり、複数の論点を混ぜること、重ねること、違う解決策や手段が見えてくるもの。あまり繊細すぎないこと。

日常の登場人物を 増やす

人物を増やすからって、決して仲良くなる人を増やすわけではない。関わる人を増やすこと。大人でも子どもでも、どんどん関わる人を増やしてみると、「何で?」と思うことも増えてきて、考えるきっかけも多くなる。そして、みんなでやれることも増えるでしょう。そこからいろいろな化学反応が起きるから面白い。

DIRECTOR 鈴木七冲

1964年、愛知県名古屋生まれ。大学と服飾専門学校を卒業後、ファッションブランドのパタンナーとして活動。その後、コピーライターなどの経験を経て1997年、未経験のまま出版社に入社。編集者として160冊以上の書籍を編集、心と記憶に残る数々のベストセラーは今でも読み継がれている。2011年、初の映像監督作品としてドキュメンタリー映画「SWITCH」を発表。国内外450か所以上で上映され、観客動員数は12万人を超えた。2018年1月に「株式会社なないち」を設立。現在は、もっと「編集力」を広めるべく、書籍の編集、映像作品の制作、企業の顧問やコンサルティング、コミュニティの企画・運営などを展開している。2020年秋に町づくりコミュニティサロン「風の町」を立ち上げると同時に、初の著書「情報断食」を発表する。2023年6月、神戸市長田区にある多世代型介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」を運営する30代たちを描いた最新映像作品「30(さんまる)」を発表。全国で自主上映をスタートさせる。京都+東京の二拠点で活動。2024年8月、会社名義を「株式会社 今日と明日」に変える。



<https://30sanmaru.com>

【出演】 首藤義敬 首藤美幸
高橋大輔 岩本茂 和田健
前田彰 前野隆司
「はっぴーの家ろっけん」の人たち
エンディング曲
「人類の水面」
作詞・作曲 DAI (Daisuke Katsumata)

企画・撮影・監督：鈴木七冲 構成・編集：鈴木経生
音楽：あづみびあの、DAI ナレーション：熊谷真実、鈴木七冲
スチール撮影：阪下混成 イラスト：みゆきち、石井たみこ
ビジュアルデザイン：chichols (山田知子+門倉直美)
製作：株式会社なないち 協力：株式会社 Happy
株式会社内外出版社 株式会社新規開拓 風の町

目の前にいる人の日常を深掘りしていこうと思ったら

もっと変わった30代たちが多世代型の交流を試しながら
世界を少しだけ面白くする方法

日常の登場人物を増やしてみる。

カオスクリエイター
「はっぴーの家ろっけん」代表
首藤義敬

みんな勝手に生きてんでしょ、ここで